

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 1 区分

【発行日】令和 3 年 7 月 26 日 (2021.7.26)

【公開番号】特開 2020-26374 (P2020-26374A)

【公開日】令和 2 年 2 月 20 日 (2020.2.20)

【年通号数】公開・登録公報 2020-007

【出願番号】特願 2018-152319 (P2018-152319)

【国際特許分類】

C 3 0 B 29/36 (2006.01)

C 3 0 B 23/02 (2006.01)

【F I】

C 3 0 B 29/36 A

C 3 0 B 23/02

【手続補正書】

【提出日】令和 3 年 5 月 11 日 (2021.5.11)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 2 5

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 2 5】

ここで結晶方位及び面は、ミラー指数として以下の括弧を用いて表記される。() と { } は面を表す時に用いられる。() は特定の面を表現する際に用いられ、{ } は結晶の対称性による等価な面の総称 (集合面) を表現する際に用いられる。一方で、< > と [] は方向を表す時に用いられる。[] は特定の方向を表現する際に用いられ、< > は結晶の対称性による等価な方向を表現する際に用いられる。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 2 9

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 2 9】

原子配列面 2 の形状は X 線回折 (X R D) により測定できる。測定する面は測定する方向に応じて決定される。測定方向を [h k i l] とすると、測定面は (m h m k m i n) の関係を満たす必要がある。ここで、m は 0 以上の整数であり、n は自然数である。例えば、[1 1 - 2 0] 方向に測定する場合は、m = 0、n = 4 として (0 0 0 4) 面、m = 2、n = 1 6 として (2 2 - 4 1 6) 面等が選択される。一方で、[1 - 1 0 0] 方向に測定する場合は、m = 0、n = 4 として (0 0 0 4) 面、m = 3、n = 1 6 として (3 - 3 0 1 6) 面等が選択される。すなわち測定面は、測定方向によって異なる面であってもよく、測定される原子配列面 2 は必ずしも同じ面とはならなくてもよい。上記関係を満たすことで、結晶成長時に及ぼす影響の少ない a 面又は m 面方向の格子湾曲を c 面方向の格子湾曲と誤認することを防ぐことができる。また測定は C 面、S i 面のいずれの面を選択してもよいが、坩堝の設置面に貼りつける貼付面 (第 1 面) に対して行うことが好ましい。